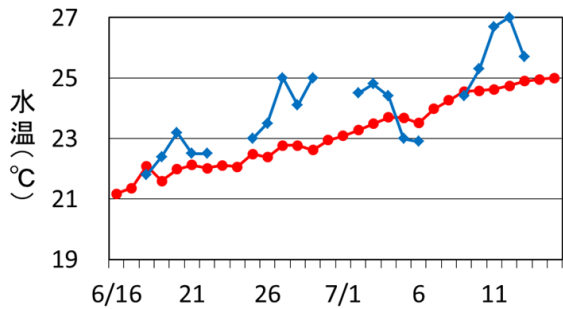


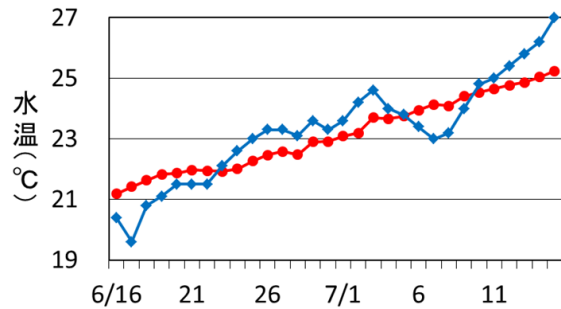


〔海の状況 (6/16~7/15)〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通して平年よりやや高め (平年差 0.5~1.0℃) から平年よりはなはだ高め (平年差 1.5℃~) で推移した。7/4-6 の水温の低下は台風7号の影響と考えられる。(図1) ※平年は、神子地先の過去30年平均
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通して平年並み(平年差±0.5℃)から平年よりやや高め (平年差 0.5~1.0℃) で推移した。7/4-7 の水温の低下は小川と同様で台風7号の影響と考えられる。(図2)



◆ 本年 ◆ 平年 (過去30年平均)
図1. 若狭町小川地先における表面水温の推移



◆ 本年 ◆ 平年 (過去20年平均)
図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況:6月〕

6月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0m)では嶺北沿岸で20~22℃と前年より水温が高くなっていたが、京都沿岸および富山湾で18~20℃と低くなっていた。水深100mでは山陰・若狭沖の冷水域の規模は前年より大きく、接岸していた。(図3)

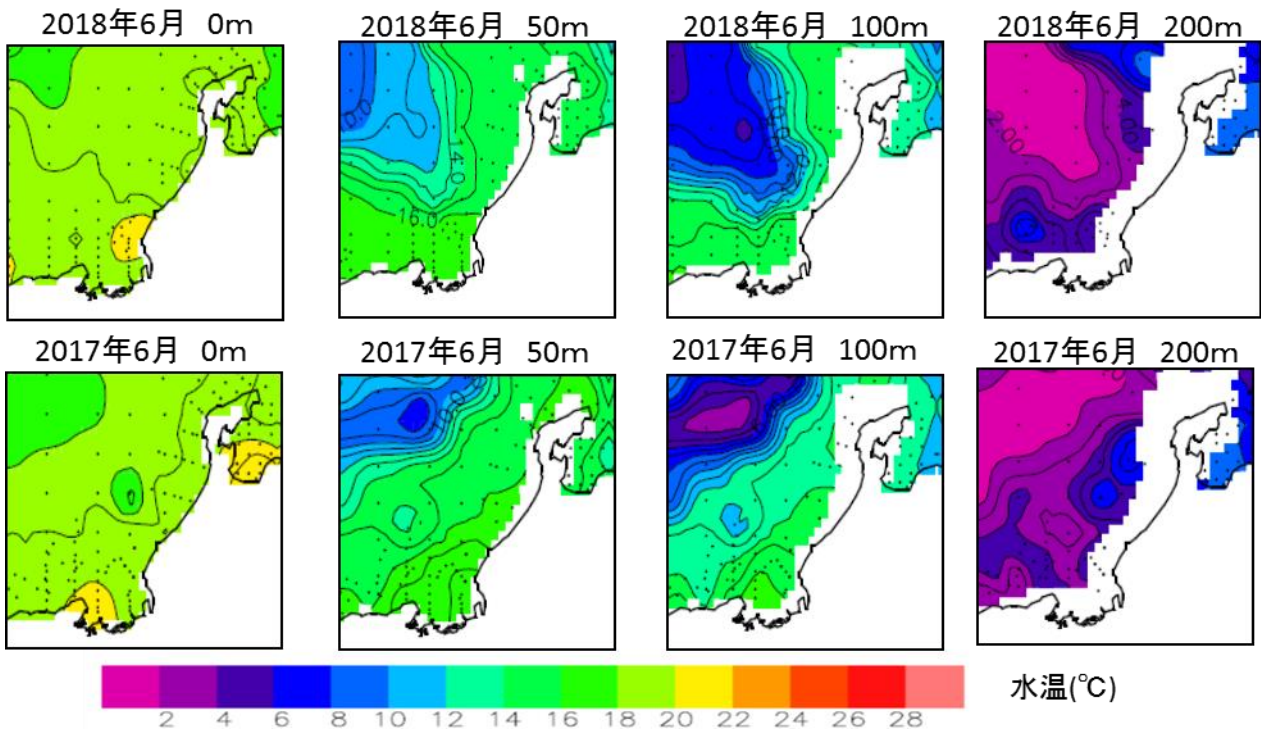


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

平成30年度 第2回 日本海スルメイカ長期漁況予報

水産研究・教育機構 日本海区水産研究所からスルメイカ長期漁況予報が発表されましたので概要をご紹介します。(対象：小型いか釣り)

○来遊量・漁況：前年および近年平均を下回る。

○漁場：近年同様、漁場が形成されにくい。

この予報は日本海区水産研究所ホームページ(<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/index.html>)からも閲覧できます。(漁場環境グループ 山下 慎也)

〔県内の漁模様：6月〕

2018年6月の県内の総漁獲量は1,012tで、昨年同月と比べて61t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は806tで、昨年同月と比べて42t下回った。ブリ類、ヒラマサ、その他イカ等は上回り、アジ類、サワラ、ケンサキイカ等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は53tで、昨年同月と比べて7t上回った。キダイ、アカガレイ、アカエビ等は上回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は153tで、昨年同月と比べて26t下回った。アジ類、サワラ、カマス等は上回り、トビウオ、スルメイカ、タコ類等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(6月)

定置網 (kg)						底びき網 (kg)					
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差	魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
マイワシ	2,710	22	272	2,688	2,438	キダイ	2,289	1,260	1,025	1,029	1,264
カタクチイワシ	7,963	10,075	8,233	-2,112	-270	アカガレイ	3,222	902	5,779	2,320	-2,557
アジ類	84,267	110,056	237,154	-25,789	-152,887	キス類	1,021	385	381	636	641
サバ類	29,146	47,581	57,118	-18,434	-27,972	アカエビ	40,408	38,368	40,996	2,039	-588
カジキ類	553	2,162	799	-1,609	-245	その他エビ	2,036	2,433	3,853	-397	-1,817
カツオ類	2,763	521	1,783	2,241	980	その他	4,036	2,761	7,055	1,275	-3,019
ブリ類	202,361	99,148	296,870	103,213	-94,509	合 計	53,012	46,109	59,089	6,903	-6,077
(ブリ)	78,687	28,396	58,717	50,291	19,970	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(ワラサ)	80,480	2,102	12,507	78,378	67,973	魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
(ハマチ)	10,553	19,157	58,837	-8,603	-48,284	アジ類	4,266	242	681	4,024	3,584
(ツバス)	32,562	49,486	166,773	-16,924	-134,211	サワラ	9,688	8,419	2,334	1,269	7,354
(アオコ)	78	7	36	71	42	トビウオ	7,527	10,032	2,839	-2,504	4,688
ヒラマサ	7,633	1,048	1,632	6,584	6,001	マダイ	2,228	1,508	2,689	721	-460
サワラ	255,797	307,615	119,823	-51,818	135,974	キダイ	5,415	5,373	6,249	42	-835
トビウオ	153,865	166,183	171,237	-12,319	-17,373	アマダイ	3,330	4,135	4,317	-805	-986
マダイ	10,647	9,156	10,116	1,491	532	スズキ	1,857	2,177	5,083	-320	-3,226
チダイ	447	403	387	44	59	その他カレイ	1,480	2,235	2,815	-755	-1,335
その他タイ	3,660	2,802	1,171	858	2,489	カマス	1,158	8	149	1,150	1,009
クロダイ	1,395	1,536	1,296	-141	99	アナゴ	3,049	4,217	3,066	-1,168	-17
スズキ	8,173	11,971	9,069	-3,797	-896	メバル類	2,267	3,517	4,460	-1,250	-2,193
ヒラメ	723	1,101	1,298	-378	-575	スルメイカ	38,427	40,988	170,940	-2,561	-132,513
カマス	2,188	1,892	6,939	296	-4,751	ケンサキイカ	1,605	2,908	1,994	-1,303	-388
フグ類	6,305	9,854	8,423	-3,549	-2,118	タコ類	26,796	31,753	36,513	-4,957	-9,717
スルメイカ	3,399	7,516	10,619	-4,116	-7,220	その他	43,647	61,058	83,751	-17,412	-40,104
ケンサキイカ	8,869	35,218	12,231	-26,350	-3,362	合 計	152,740	178,569	327,880	-25,829	-175,140
その他イカ	4,273	899	2,008	3,374	2,265	全漁法 (kg)					
タコ類	869	610	625	259	244	魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
その他	8,456	21,407	21,068	-12,951	-12,612	合 計	1,012,214	1,073,453	1,367,142	-61,238	-354,927
合 計	806,462	848,775	980,173	-42,312	-173,710						

※1 平年の値は2008-2017年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：6月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：6月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：6月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：6月中旬～7月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マイワシ6.8t、ブリ5.7t、マアジ4.7t、フクラギ・コゾクラ(1kg以下のブリ)3.8t、トビウオ3.5t
 京都府…定置網…トビウオ2.8t、マアジ2.2t、サワラ類1.8t、ツバス0.2t、ブリ2.4t、ケンサキイカ0.2t
 兵庫県…定置網…マアジ531kg、トビウオ132kg、スズキ21kg、ハマチ(1.5～3kgのブリ)16kg、マダイ14kg、カマス11kg
 鳥取県…まき網…マイワシ29.0t、マサバ17.0t、マアジ12.5t、ウルメイワシ9.1t、ブリ類0.6t

(漁場環境グループ 山下 慎也)

平成30年度スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬から7月中旬にかけて行われましたので、その結果についてお知らせします。

(1) 福井県の調査結果(表1)

福井県沖合の4定点(図1)において、釣機6台を用いて毎晩20時~4時の8時間釣獲試験を行いました。

●漁場水温…釣獲海域の表面水温は20.0~24.4℃(2017年:19.8~23.3℃)、50m深水温は11.6~17.4℃(同:8.5~17.1℃)でした。

●釣獲結果…総釣獲尾数は、1,317尾(2017年:893尾)、CPUE(釣り機1台1時間あたりの釣獲尾数)は0.7~12.6尾、平均7.3尾でした。

●体長組成…釣獲されたイカの胴長(外套背長)は、7月9日操業においては23~24cm、7月10日操業においては19~20cm、7月11日操業においては20~21cm、7月12日操業においては16~17cmが主体でした。

表1 調査点およびスルメイカ釣獲調査結果

月日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日
調査位置	N36° 40'	N38° 02'	N37° 41'	N36° 57'
	E134° 59'	E135° 01'	E135° 39'	E135° 39'
釣獲尾数	33	252	502	530
CPUE	0.7	5.3	10.5	12.6
平均胴長(cm)	20.7	19.4	19.5	18.6
表面水温(°C)	21.0	20.0	24.4	23.8
50m深水温(°C)	11.6	13.3	17.4	15.9
標識放流尾数(尾)	0	0	192	162
標識番号 (黄色アンカー型タグ)			JPN I01 I02	JPN I00 I03

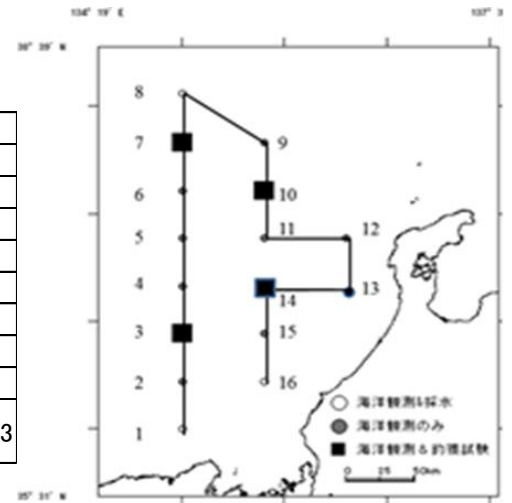


図1 スルメイカ釣獲調査点

(2) 日本海全体の状況(図2)

日本海区水産研究所の取りまとめによると、全調査定点におけるCPUEの平均は10尾で、前年(12尾)を下回り、近年平均(16尾)の約63%でした。道北~道央海域では、外套背長18cm台以下の個体を中心に採集され、CPUEは55尾が最大でした。

本州西部日本海では、16cm台以下の個体を中心に採集され、1点でCPUEが13尾でしたが、その他は3尾未満でした。

沖合域では、大和堆周辺海域におけるCPUEは、他の海域より比較的高かったのですが、50尾以上の調査点はなく最大で39尾でした。

今後の見通しとして、西部日本海では、来遊量は前年および近年平均(過去5年平均)を下回っており、沖合からの南下群による好漁場は形成されにくいと予想されます。沖合域の来遊量も、前年および近年平均を下回ると予想されず。主漁場は、北海道西沖で8月~11月、大和堆周辺海域で11月~12月に形成されると予想されます。

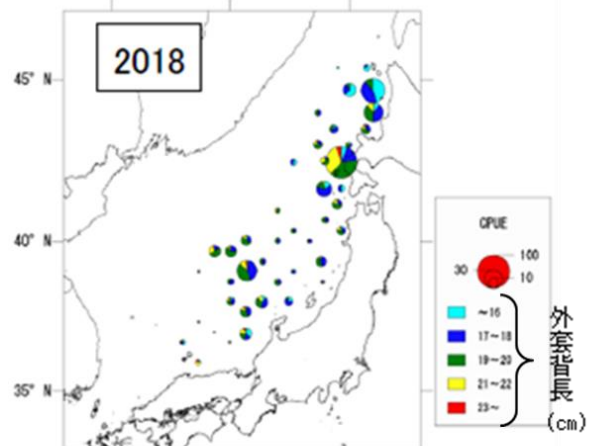


図2 日本海におけるスルメイカ分布(悪天候による欠測有)

本調査では合計354匹のスルメイカの標識放流を行いました。標識(写真1)の付いたスルメイカを採捕されましたら、水産試験場までご連絡をお願いいたします。

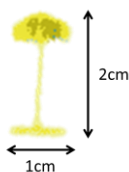


写真1 アンカータグ

(漁場環境グループ 山下 慎也)

種系の産地とワカメの生長および収穫量の関係

ワカメ養殖は、福井県の海面で大規模に行われている唯一の藻類養殖です。11月下旬から12月初旬頃にワカメの幼体が付着した種糸を養殖用のロープ（幹縄）に挟み込んで海面に張ると、種糸から複数本のワカメが生長し、2月から3月頃に収穫することができます。養殖用の種糸は主に県外から購入しています。しかしながら、近年では一部のワカメ養殖業者において養殖生産量が不安定化しています。その原因の一つとして、種糸の産地と生産量の関係が考えられています。そこで、種糸の産地とワカメの生産量の関係を把握するため、複数産地の種糸を用いてワカメの養殖試験を行いました。

試験には、宮城県産2種類（以下、「宮城産」および「宮城内湾産」という。）、小浜市志積産（以下、「志積産」という。）、徳島県鳴門産（以下、「鳴門産」という。）および新潟県佐渡島産（以下、「佐渡産」という。）の種糸を使用しました。種糸を3cm間隔に切り、養殖用の幹縄に40cm間隔で挟み込み、2017年12月4日から2018年3月12日まで福井県水産試験場前の海面で養殖しました。2月22日と3月12日にワカメの全長を測定しました。また、3月12日には、種糸3cmあたりの収穫量も測定しました。

種糸の産地とワカメの生長の関係を図1に示しました。佐渡産以外のすべての種糸からワカメの生長が確認されました。試験終了時の全長は、鳴門産が最も長くなり（図1）、種糸3cmあたりの収穫量も鳴門産が最も多くなりました（表1）。

本試験結果から、ワカメの生長および収穫量は種糸の産地間で差が認められ（図1、表1）、種糸の由来は養殖生産の不安定化要因の一つであることが確認されました。種糸の品質は年によって変動している可能性もあるため、本試験結果だけから種糸の産地の優劣をつけることができないと考えられます。ワカメ養殖生産量を安定化させるためには、他の要因も含めて複数年の調査が必要です。水産試験場では、2018年4月から「ふくい海藻増養殖技術開発事業」に取り組んでおり、本事業においてワカメ養殖の研究も進めていきます。

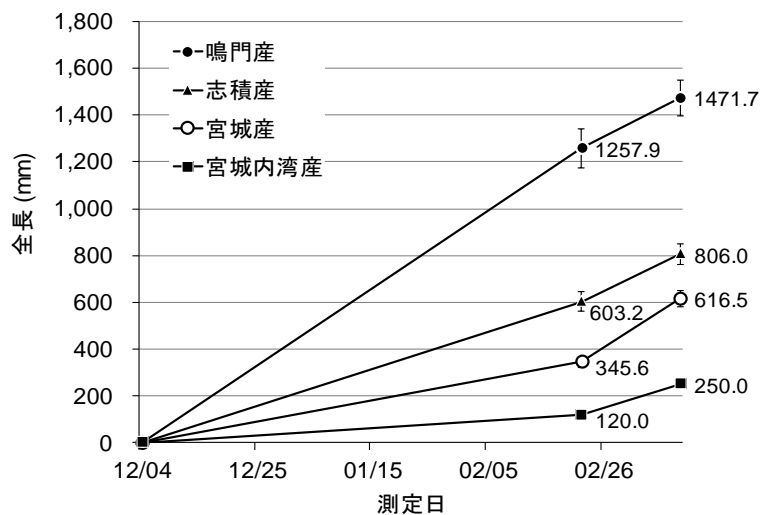


図1 ワカメ全長の推移 (平均値±標準誤差)

表1 種糸の産地と種糸3cmあたりのワカメ収穫量

種糸の産地	平均値 (g)	標準偏差	標本数	備考
宮城産	369.3	193.6	11	
志積産	551.5	247.3	10	
宮城内湾産	10.5		1	
鳴門産	1627.3	747.6	12	
佐渡産	0		12	ワカメの生長は確認されず

養殖期間: 2017年12月4日~2018年3月12日

養殖場所: 福井県水産試験場前の海面生簀